



わたなべ・かな  
1980年岩手県生まれ。98年第52回二紀展初入選。2005年度應義塾大学大学院政策メディア研究科修了。主な受賞に09年昭和会展松村謙三賞、第63回二紀展優賞、11年第8回上毛芸術文化賞、群馬県高崎市功労者賞ほか。主な展示に10年アートフェア東京（日動画廊ブース）、11年個展（日動画廊）など。今秋より文化庁芸術家在外研修員としてスペインへ

成功も失敗も、  
自分のものになる  
その実感、他にはないです。  
——渡辺香奈



流々奏々 2009年  
50号S 油彩、キャンバス  
第44回昭和会展松村謙三賞受賞作

た！ 現金な女の子だなと思ったな！  
渡辺（笑） 受賞してすぐは、何が何やら判らない状況で右往左往していったんです。初めて日動画廊に入ることにビックリしていて、入口の扉の取っ手が立派なことにまず驚いたり、そんな具合でしたから……本当に言ったのだとしたら申し訳ありません。  
山本 二紀展のパーティーで、（同年、二紀展優賞を獲った）彼女とたまたま隣り合わせたんですよ。普通は「入選して嬉しいです！」など

松村謙三賞受賞時の「失礼発言」に思わず赤面

松村 松村謙三賞を獲ってどうですか。受賞パーティーで会ったときは「昭和会展を狙ってたんですよ！」って言うってたよね。ずいぶん失礼な子だなあと思ったよ！ まだ僕が賞を出して間がなかったから仕方ないか？

長谷川 その前年、2008年に佐藤智子さんが受賞したのが「松村謙三賞」のスタートですから。

山本 当時はまだ2回目です。「なんだかわからない人の名前がついている」という感じだったのかもしれないね（笑）。

松村 次の年にパーティーで会った時は、走り寄って来て「松村謙三賞を獲って私の人生変わりました！ 握手して下さいさい！」って来たのには、本当に驚いた！

第44回展

「松村謙三賞」

渡辺香奈

巨匠への第二步

昭和会展・最新世代の魅力——②

撮影・船寄剛  
本文構成・丸山かおり



第44回昭和会展松村謙三賞受賞作品《流々奏々》の前で。右から作家、プリヴェ企業再生グループ代表取締役社長・松村謙三、洋画家・山本貞、日動画廊代表・長谷川徳七の各氏

「昭和会展」の最新世代をクローズアップする連載・第2回！前号に続き、第44回展（平成21年度）の受賞者をピックアップ。「昭和会展」と並ぶ賞として2008年からもうつけられた「松村謙三賞」に輝いた渡辺香奈さんが今回のゲスト。彼女の飾らない言動に、思わず笑いに包まれた収録現場。やがて話題は、なぜ彼女が大手企業の研究職を辞して画家という生き方を選んだのか、という本質論へ……。

【ホスト】

松村謙三（プリヴェ企業再生グループ代表取締役社長・大阪大学 知的財産センター招聘教授）

山本貞（洋画家・日本芸術院会員）

長谷川徳七（日動画廊代表・昭和会事務局）

と言うものなのに、彼女はそんなことを口にしない。それで当時世間で話題になっていた(テレビの録画などに使う)ブルーレイのことをちょっと話してみたら、期待していなかったのに的確な知識がパンパン返ってくる。よくよく聞いたら「大手電機メーカーの研究所の研究者をしている」というじゃないですか。これはどうも毛色が違う女の子だなあと(笑)。

## 芭蕉の「<sup>かろ</sup>軽み」に通じるテイストが時代性とリンクし、新しさを生む

——授賞の時は、渡辺さんの作品を見てどう思われましたか？

長谷川 非常に個性的な、アクティブな新風が吹いてきたという感じがしました。色もきれい



うものいい意味で使っています。彼女の作品に流れている時代性がそれであり、同時に魅力なのです。かつて画家たちが「絵描きはかくあらねばならぬ」ということにこだわっていたような時代とは、今は違う。僕らの時代は、戦艦大和みたいに重厚長大のが良いとされていて、特に公募団体では、伝統的にグレーズを重ねて「重み」をだそうとする絵が多かったんですよ。でも、そんな戦艦大和が「軽み」の面白さに一発で負けちゃ。重みを出そうと一所懸命になるうちに、新しい発見がだめになってしまふ、というか。これは若い世代に共通する僕の解釈だけ

まつむら・けんぞう  
ブリヴェ企業再生グループ株式会社代表取締役社長。他に大阪大学 法科大学院招聘教授、大阪大学 知的財産センター 招聘教授、経済同友会 金融市場委員会委員も。来年、「松村謙三美術館」を清里にオープン予定



だし、今までにないリアリズムが面白いし新鮮な味わいがある。それを大切にしてほしいと思うと同時に、今後どう動いていくのか、どこか心配でもありましたね。

山本 彼女の作品には、芭蕉を語る際によく言われる「<sup>かろ</sup>軽み」がありますよね。二紀展で彼女の作品を推薦する場では、実は反対の声もありました。「軽い」と。しかし僕は「軽み」というものをいい意味で使っています。彼女の作品に流れている時代性がそれであり、同時に魅力なのです。かつて画家たちが「絵描きはかくあらねばならぬ」ということにこだわっていたような時代とは、今は違う。僕らの時代は、戦艦大和みたいに重厚長大のが良いとされていて、特に公募団体では、伝統的にグレーズを重ねて「重み」をだそうとする絵が多かったんですよ。でも、そんな戦艦大和が「軽み」の面白さに一発で負けちゃ。重みを出そうと一所懸命になるうちに、新しい発見がだめになってしまふ、というか。これは若い世代に共通する僕の解釈だけ

## 中世画から印象派に変わったくらいのインパクトがある！

——松村謙三

ど、彼女の場合も映像時代の作家なんです。裸婦や石膏デッサンではなくて、テレビや雑誌といったビジュアル世界に、目を馴染ませているはず。時代に合う、という意味でも鮮度がいい。本当にコンテンツ (con tempo) 「時機に合った、時代に合った」などの意) なんだよね。

長谷川 近代洋画との違いですね。昭和会展の受賞者も、ここ数年で本当に若い女性作家が増えたけれど、彼女個人については、既存の美術教育の場とは違う場所ですと訓練を積んできたというバックグラウンドが影響しているんじゃない傾向がある。だから「新しい絵」ができあがってくる。

松村 そう！ 渡辺さんの絵は、会場行って、パッと「ああこれは！ これはいい」。新しい絵だなと思った！ 構図が斬新！ だから、どんなに失礼な事を言われた後でも、いい絵だから僕は買ったんだ、何枚もね！

渡辺さんの作品は、大げさに言うと中世画から印象派に変わったくらいのインパクトがあ

る！ 当時印象派は、パッと見て終わりと言う意味で印象だけではないかと酷評されていたが、あとになって、それが「新しさ」だった事が分かったんだ。彼女の絵が「新しい」から彼女のビビッドな画風を真似する同世代の画家も出てきているよね！

——先ほど「既存の美術教育の場とは違うところです」と訓練を積んできた」と長谷川社長がおっしゃいましたが、渡辺さんはどこで絵画を学ばれたんですか？

渡辺 高校のとき美術部におりました。あとは独学です。二紀展は、高校生の時に初出品して入選しました。地元高崎市の市民ギャラリーに並んでいた図録がたまたま二紀展のものだったんです。それを広げて「これはすごい！」と思ったことがきっかけで、自分も応募しようとして100号を描きました。

長谷川 普通、美大志望でもない受験生が、大事な夏に100号を描かないよね(笑)！

一同 (笑)

——受賞作から、現在高崎市美術館で展示中の大作《倅に殺され、邪に締め出され》に至るまで、「髪」がキーモチーフであるように思え

## 芭蕉にも通じる「<sup>かろ</sup>軽み」、それが時代性であり魅力です。

——山本貞



やまもと・てい  
洋画家。現在、日本芸術院会員、二紀会理事長、日本美術家連盟常任理事。1934年東京都生まれ。58年武蔵野美術学校卒業。72年の第8回昭和会展での優秀賞作家でもある



[上] 神無月 2010年 30号F 油彩、キャンバス  
GIRLS!〜現代を彩る新進気鋭の女流画家たち〜出品作  
[左] 来日讃歌 2010年 100号F 油彩、キャンバス  
アートフェア東京での個展 (日動画廊ブース) 出品作  
両作品ともに、現在は松村謙三氏のコレクション

ます。渡辺 私が作品が完成したな、と、筆を置く目安は、絵そのものがすーっと動き始めたとき、そのときが仕上がってきたと感じるときです。その中でも、(人物の場合は) 髪の毛の動きを描き上げたときが、勢い、を感じるか感じないかの、ひとつの砦ですね。ぶわっと風が吹く、周囲のものが舞う、ふとそちらに首を傾ける、さらに風が吹く、長い髪がたなびく。私にとって絵は、ものが一連で動いている中の、その1コマを切り取った窓のように考えているので、渦が一番巻いているとき、そこがクライマックスです。

——あくまで描く対象としての「髪」なんですね。作品の人物は顔を見せませんし。

渡辺 顔を見せない方が楽しいでしょうか(笑) 顔を出してしまうと「作品の中でいったいなにが起きているんだろう？」と想像が膨らむポイントが散漫になってしまうので。そうならないようにとどめたい。感情的なものを表にださないように仕上げたいんです。感情がないのではなく、それをギリギリまで抑えて抑えて、客観的

に、どろどろしたものを出不さないように。

髪の毛って細いんですよね、近くで見るとわかるんですけど、遠くから見ると見えにくくなってしまふ。なので描くときは、近くで見ると細いラインであって、遠くから見てもそのラインが空気をはらんだように全体が流れているのがわかる、そこを気をつけています。

信念だけを頼りにすすむ、孤独な戦い、アートと事業が似ている、その理由

**山本** 単純な言い方になるけど、美術学校に行かないで、よくここまで描けるようになったね。**渡辺** 会社を辞めてからの半年間は、「月に2、3回はなんでもいいから公募展に作品を出す」という一点に目標を定めて——未完でもいいし、ちよつと自分で気に入らなくてもいいから——とりあえず外で発表すること、「自分の家の壁以外の場所に作品が飾られる」ということに集中しよう、と。そうして半年後、二紀展出品を経てたどり着いたのが、昭和会展での松村謙三賞の受賞だったんです。

**山本** 英語の勉強にたとえれば、文法をガタガタやらずにいきなり英会話から入ってヒアリングから言葉というものを探り当てた感じね。文法書をコツコツ進めている人から見れば面白く



はせがわ・とくしち  
日動画廊代表取締役社長。1939年東京都生まれ。64年住友銀行東京支店勤務を経て日動画廊入社。98年コマンドール芸術文化勲章をフランス政府より受章

アクティブな新風が吹いてきた、という感じがしました。——長谷川徳七

ないと思われるかもしれない。二紀展では、あなたはまだ新入りのお客さん扱いだから、これから会員たちを本格的に納得させるような、いや有無をいわせなくらいのものを創っていかなくちゃいけないね。

ただ、こういう感覚の新しきとか鋭さっていうのは、むしろ松村さんのような新しいビジネスマンのほうが共感できることが多いのかなあ、とも思います。

——そうかもしませんね。

**松村** アートと事業は非常に似てると思ってる。アートは真っ白いキャンバスに自分が頭で描いたイメージを描いていく！ 事業も事業家が頭に描いた「これだ！」と思ったビジネスモデルを何も無いところで実行に移して行く！

ただ、そんな思った通り簡単に行く話はない。途中でダメになったり、別のやり方を考えて工夫してたら全く別ものになったりと試行錯誤の連続です。ビジネスも絵も売れるかどうか、先の事が分からないなか、信念だけを頼りに黙々とやって行く訳です。たいへんな孤独との闘いです。まさに薄氷を踏む思い！ 後は、運しかないかな？ 画家と非常に似てるでしょ！

**長谷川** 平穩無事な生活ではなくて、自分自身に賭けていくわけですよね。アートの世界も、誤解を恐れずに言えばギャンブル的なところは

ながらどんどん実現化できる。

そういう「技量」に特化したカリキュラムで探したら、ドイツとスペインにあるふたつの大学が候補に挙がって、マドリッドにあるスペインの大学のほうからは快諾をいただいたので、そちらに行くのが運命なんだ、と。

**山本** そういうところも軽やかだね（笑）。

——スペインといえば写真絵画を学びに行く作家が多い、と言うイメージがありますよね。

**渡辺** スペインリズムは、描写力には惹かれましたけど、哲学的な方向の意味合いとは別ですね。描くということに対する、彼らと私の位置が違うと思います。留学先で、自分の描きたい「テーマ」や「もの」を探したいわけではなく、大学という場で、集中して「描く」ということをやりたいんです。

**山本** 今のうちは仲間たちのおしやべりなどで「軽み」の世界で楽しんでいられるけど、スペインはそんなことないからね……ガーンとやられるよ、きつと。（笑）

**長谷川** スペイン留学で彼女が今後どう展開していくのが楽しみですね。これまでとは違う土地で、新しいものを見て、いろんなことを吸収してガラリと画風が変わったりして、すごく好きな男性ができたとき、恋に狂ったとき……。

**山本** スペインに渡ってすぐに恋に狂ったら、文化庁は泣きますよ（笑）。

**松村** 文化庁に選ばれたのは、松村謙三

あって——画家と画商は人間同士のつきあいですから、支え続けた作家が伸びても、「画商のことなんか知らない」って言われてしまえば終わりですし。

**松村** 画家っていう職業は自由奔放だね、僕から見ても！（笑）

**渡辺**（苦笑） 画家になったことで一番嬉しいのは、（会社名などではなく）自分の名前がブランド名である、ということです。それはつまり、成功も失敗も、すべて自分のものになる。仕事の舵をどう切るかも、すべて自分の思うままにチャレンジできる。誰の失敗でも成功でもない。すべてが自分の人生と直結する。その実感って、他の職業にはないです。それが画家に転進した一番の理由かもしれません。

スペインでひたすら「技量」を磨きたい、そして次なるステージへ

——今秋からスペインに留学されますね。現地で学びたいと考えていることは？

**渡辺** 表現したいと思うものを自由自在に描けるだけの技量が欲しいです。「描いたことはないけれど、きつと描けるだろう」と思いながら描き進めたいんです。たとえば、花の、光があったっている面と、裏側の透けた感じを区別して描けるかどうか、とか。「描ける」と思える経験が備わっていれば、下図の段階から「できるんだ」という自信を持って進められるし、最初に仕上がるの理想像を描いて、それを描き進め

賞獲ったからでしょう。君、ちよつとは感謝してよ（笑）。

**渡辺** それは本当に感謝しています！あの受賞からいろいろなことが動き出したと感じていますので……。今、高崎市美術館で展示中の作品は、今までの自分を越えた制作ができたと感じられました。ふと真夜中に「スペインに行つて、万が一私の身に何かあったら、遺作がないっ！」ということに気がついて（笑）、それで必死で描いたんです。

縦194、横130センチが8枚連続していて、並べると10メートル40センチあって。初めて挑戦する大きさで、これだけ大きいと体力も気力も周りの協力も必要で。逆に制作に充実した時間が取れる時間が揃わないと描けない作品かもしれない。留学前に描いた最後の大きな一枚です。展示している空間全体がうねるような迫力を出すのが目的でした。

**山本** 遺作になつても後悔しない出来（笑）？

**渡辺** はい、いまのところは。（笑）

**山本** 男顔負けの潔さだなあ。その自意識に、感銘を受けます。

——どうか無事のご出国、ご帰国を（笑）。スペインですます腕を上げて、それがどう展開されていくのか。素晴らしい成果を期待しています。本日はありがとうございました。



「アート・ツリーズ——つながっていく、樹々の物語」での《倅に殺され、邪に締め出され》  
(194×1042.4cm 油彩、キャンバス) 展示風景